

館山塾報



〒101-0061

東京都千代田区三崎町二一八八一
 Tel (03) 33264186
 Fax (03) 33264186
 館山塾
<http://www.tateyamajuku2.com/>

contents

予定表・冬期講習…………… 1面 冬期講習時間割…………… 2面
 高校入試情報…………… 3面 館山塾への道…………… 4面

十二月～二月の予定

中学生クラス

- 11月27日(日)…………… 第五回中三テスト演習
- 12月13日(火)…………… 平常講義終了
- 12月14日(水)～17日(土)…………… 中三オプシヨン講座
- 12月18日(日)…………… 休講
- 12月19日(月)～22日(木)…………… 中三オプシヨン講座
- 12月23日(金)…………… 冬期講習
- 12月24日(土)…………… 休講
- 12月25日(日)～28日(水)…………… 冬期講習
- 12月29日(木)…………… 休講
- 12月30日(金)～31日(土)…………… 中三正月特訓前半
- 1月1日(日)…………… 休講
- 1月2日(月)～3日(火)…………… 中三正月特訓後半
- 1月4日(水)～6日(金)…………… 冬期講習補講期間
- 1月7日(土)…………… 冬期講習総合試験(除中三)
- 1月8日(日)……………
- 1月9日(月)…………… 平常講義開始
- 1月15日(日)…………… テスト演習個別指導
- 1月22日(日)…………… テスト演習個別指導
- 2月5日(日)…………… テスト演習個別指導
- 2月12日(日)…………… 進級試験(除中三)
- 2月19日(日)…………… 中三平常講義終了
- 2月26日(日)…………… 中一・二平常講義終了

お知らせ

★中三正月特訓講座の開設

直前期カリキュラムの一環として、全員参加を原則としています。入試演習のタイプ、選択講座を各自が選択する形式です。選択講座の詳細は、教室でお渡ししている申込用紙を参照して下さい。

★高一への進級に際して

中三生は、来年度、優先的に高一クラスへの進級資格があります。進級試験は、高校入試日程終了後に受験して戴きます。別途申込は必要ありません。

★平常講義の終了日

中一・二は2月26日、中三は2月19日となります。

中学生保護者面談

既にお知らせ致しました通り、中学生の個人面談は、10月26日～11月1日の休講期間中に実施致しました。なお、中三の受験相談は随時行いますので、ご希望になる場合は、直接、担当講師までご連絡下さい。

中三テスト演習

九月より、中学三年生を対象に、入試総合特訓のための、テスト演習を実施しています。

期日 11月27日(日)：第5回

1月8日(日)：第6回

個人成績票に関して

第3回よりタイプ別に合格可能性を表示しています。

80%以上⇨確実

60%⇨合格圏

30%⇨可能性はあるがもう一歩、といった数字です。

☆科目毎の判定

・科目毎の判定(A・B)はそれぞれの科目の絶対評価を示し、棒グラフは科目の偏差値で、受験者内での位置を示します。苦手科目を的確に把握し、その克服に努めましょう。

※テスト演習総まとめの個別指導

期日 1月15日(日)・22日(日)・2月5日(日)

内容 直前期の弱点補強、面接練習、勉強会などを行います。詳細は、担当講師から通知します。

△▼△▼ 冬期講習のお知らせ ▲▼▲▼

講習 12月23日(金)・12月25日(日)～28日(水)

補講 1月4日(水)～6日(金)

総合試験 中一・二…1月7日(土)、中三…1月8日(日)

科目 中一・二…英数国三科目、5日間、80分授業

中三…英数国(理社選択)、5日間、80分授業

十各学年 補講3日間

★中一・二は、一部平常とは異なるクラス編成となります。各自のクラス及び補講の教室割等は、後日配布されるクラス決定通知書を参照して下さい。

★総合試験の時間割は講習時間帯と異なりますので、後日配布の受験票で確認して下さい。

★講習終了後、平常講義は1月9日(月)から始まります。

※中三のみ、希望制のオプション講座があります。オプション講座の詳細は、同封の申込用紙を参照して下さい。

~~~~~

中三正月特訓のお知らせ

~~~~~

冬休みの期間中、講習期間とは別に、受験生を対象とした特訓講座を開設します。例年、この時期の集中学習によって大きな成果が上がっています。正月特訓は年間カリキュラムの環境として、全員参加を原則としています。

期間 12月30日(金)～31日(土)及び1月2日(月)～3日(火)の四日間

時間 午前9時20分～午後3時50分(昼休み12時10分～1時)

内容 英数国のタイプ別入試演習、及び5教科からの選択講座。

選択科目・講座申込

教科数、演習タイプ、選択講座が、各自の志望に応じて自由に選択できます。教室でお渡ししている申込用紙に必要事項を記入の上、申し込んで下さい。平常、理社を受講していない諸君も、5教科選択をすることができます。

冬期特別講習時間割 中学生 【12/23・12/25～28】

	12/23・12/25～28		
9:20～10:40		中2英語A 中2国語B	中3社会A
10:50～12:10	中1国語B	中2国語A 中2数学B	中3英語A 中3数学B
13:00～14:20	中1数学B	中2数学A 中2英語B	中3国語A 中3英語B
14:30～15:50	中1国語A 中1英語B		中3数学A 中3国語B
16:00～17:20	中1数学A		中3理科A 中3社会B
17:40～19:00	中1英語A		中3理科B

▲▽ 高校入試情報 — 24年度高校入試について ▽▲

熊倉幹男

中間試験が終了し、次に期末試験、内申決定、受験校決定、冬期講習、正月特訓、直前特訓と受験勉強もピークに向かっていきます。受験校の決定についてはチーフとの相談の上、十分に検討する必要があります。今までも機会があるたびに確認してきた内容ですが、ここでもう一度来年度入試の注意すべき点などについてあげておきます。中1、中2の方も内容をよく見ておいてください。

(1) 都立高校の定員

中3の生徒数が昨年より若干増えていますので、定員は増加しました。ただし、1クラス増設する高校は中堅から低位校になりますので、上位を目指す受験生にとっては若干厳しい入試になることが予想されます。旧第1～5学区で1クラス増設される高校は大崎、八潮、千歳丘、光丘、豊島、向丘、板橋、江北、足立西です。

(2) 都立推薦入試

教育委員会からの指示で作文、小論文を実施する高校が増えました。今年度の入試で新たに10校が、来年度はさらに22校が加わり、合計70校が実施することになりました。内容は高校によってそれぞれ特徴があり、十分に準備しておく必要があります。例えば、

「あなたが将来お年寄りと住むとしたら、あなたは何かができますか。また何をしたいですか。」(50分400字、白鷗)

のように、日常的な問題について考えておく必要のあるものや、

「生きるということは徐々に生まれることである。」(サン・デグジュペリ)の言葉について自分の考えをのべよ。(50分600字、西)

「波」について。(50分600字、駒場)

のように、抽象的なものとのとらえ方に慣れていないと大変書きにくいものもあります。小論文は表やグラフ、説明などがあり、その内容に関する問題に答える形になっていて、社会、理科に関わる問題が多くなっています。受験する場合は、十分に練習して臨みましょう。

(3) 私立高校の入試日程

併願推薦が併願優遇に変わり2月10日以降の受験になったため、入試日を複数設定する高校が増えました。また、第二志望になる高校はどの試験日でも都立併願、または私立併願が可能なところが多いので、各高校の入試要項または説明会でよく確認をしてください。

前回の塾報でお知らせしましたが、青山学院の入試が2月12日から11日に変更になりましたので、11日の上位校は競争率が下がり12日の上位校は上がることが予想され難易度が従来と多少変わる可能性がありますので、注意が必要です。

(4) 自校作成校の3教科

次ページの表は自校作成問題の3教科平均点をあげました(理社は共通問題です)。年によって、また科目によってバラツキはありますが、大体5割から6割前後に集中しています。優秀な生徒が受験した上での平均点ですから、かなり難しいということがわかると思います。また記述式の解答は日頃からの考え方、答案の書き方が出来ていなければ対応出来るものではありません。中1、中2の諸君も一度問題を見ておくと良いでしょう。

自校作成校の競争率は大体2倍前後になっていますので、合格基準点は平均点前後であると思われます。

[4ページへ →]

[→ 3 ページから]

都立自校作成校の過去 5 年の受験者平均点

日比谷	国語	数学	英語	戸山	国語	数学	英語
23 年度	71	64	64	23 年度	65	55	70
22 年度	63	45	53	22 年度	75	52	60
21 年度	63	50	64	21 年度	68	57	57
20 年度	60	51	68	20 年度	63	36	63
19 年度	63	50	65	19 年度	63	45	59
青山	国語	数学	英語	新宿	国語	数学	英語
23 年度	60	52	62	23 年度	64	49	79
22 年度	61	52	70	22 年度	59	53	77
21 年度	62	48	59	21 年度	59	48	62
20 年度	70	57	61	20 年度	58	54	55
19 年度	61	53	50	19 年度	55	47	56

(5) 今後の日程

これからの入試、合格発表までの日程をあげておきます。

11 月下旬 期末試験

11 月下旬～12 月上旬 中学校での三者面談、受験校決定

12 月 15 日～ 中学校の先生が私立高校と入試相談を行い、単願推薦、併願優遇の確認を行う。

1 月 22 日 私立高校推薦入試

1 月 24 日 都立高校推薦入試

2 月 10 日 東京都の私立高校一般入試開始

2 月 23 日 都立高校一般入試

2 月 29 日 都立高校発表

健康に気を付けて最後まで気を抜かず頑張りましょう。

▲▽ 30 年前の合格体験記 — 館山塾への道 ▽▲

あおうだ 栗生田明子

私は不機嫌な女子高校生だった。小学校で某女子大の附属校に入って以来、受験知らずで高校まで来てしまったが、このまま何も考えずにレールの上を大学まで行ってしまっているのか、という疑問は大きくなるばかり。何かにつけて「世間知らずの温室育ち」と言われるのにはうんざりだったが、でも、確かにその通りの無知な自分に苛立っていた。

「外に出なくちゃ。」高校生になって、まずはとにかく、家と学校との往復からはみ出そうと思った。新聞と朝日ジャーナルを読み、様々なニュースの現場、政治集会・デモを覗きに行き、時にはデモに飛び入り参加。地域のボランティア活動や遺跡の発掘にも行ったし、蕎麦屋やガソリンスタンド、神社などでアルバイトも体験。高1の春休みにイスラエルのキブツに行ったのが最大の遠出だったろうか。とにかく、自分の目で実社会を垣間見ようと、片っ端からいろいろなことに首をつっこんでみた。もちろん、面白かった。でも、学校の外を知れば知るほど、附属高校という「温室」のぬるさが、ますます我慢できなくなってしまった。

何より不満だったのは学校の授業の大半がつまらないことだった。「不毛な受験勉強にとらわれず、豊かな人格形成ができる」というのが学校の「売り」だったが、私が見る限り、「受験がない」ということは授業に緊張感を無くし、教師と生徒双方の怠慢を助長しているだけのようだった。美しい建て前と、綻びだらけの内実の乖離を、見て見ぬフリをするかのような教師たち。それでいいのか？高2の時、遂に私は全校朝礼で「うちの学校、これでいいの？」と現状批判の演説をぶち、更に「わが校の現状に対する私見」というタイトルの、400 字詰め原稿用紙 40 枚以上もある意見書を書いて校長室に提出した。我ながら、どれだけ暇だったんだろう、と今更ながら呆れかえる。(なお、校長は、後日数時間かけて私の話を聞き、意見をかなり認めてくれた。私は校長と一緒に学校を出て、とっぷり日の暮れた

[5 ページへ →]

〔→ 4 ページから〕

駅前まで並んで蕎麦をすすって別れた。)

そして私が校長室に呼ばれた翌日、担任(私が唯一授業をサボらなかった世界史の教師)が私を社会科研究室に呼んで言った。「おまえさあ、早くオトナになれよ。こんな所で暴れてもエネルギーの無駄使いだろ。ここが嫌なら、ここを変えることを考えるより、ここから出ていくことを考えろ。勉強して、自分の力で外に出てみる。」—— 既に高2の秋。系列大学への内部推薦の第1次希望調査用紙が配られる時期だった。研究室の窓から西日に輝く紅葉を見ながら、私は決めた。よし、内部推薦は蹴る。外部受験だ!

・・・というわけで、自称・受験生となった私は、高2の1月に生まれて初めて「模擬試験」というものを受けてみた。河合塾の全国統一模試で、英語は辛うじて成績優秀者に入ったが、他は撃沈。普通の受験校にいたら進路指導の先生にダメ出しされるどころだろうが、私の場合、模試の結果を「みってくれる人」も「みる目」も無い。その無知ゆえに私は、「うん、英語は使えそうだし、他も、まだあと1年あるから大丈夫。」と、全くへこまなかった。これだから世間知らずは恐ろしい。ただ、さすがに、5教科7科目の共通一次試験(現在のセンター試験に当たる)と二次試験を課す国公立大を現役で目指すのは無理だと判断する常識くらいはあったので、英・国・社の3科目で受験できる私立大学に目標を絞ることにした。私大文系で、文化人類学が学べて、自分の好きな本を書いた先生の授業が受けられる大学・・・ということで、関西の南山大学、東京の成城、上智大学などが志望校として見えてきた。

だが、一人手探りで計画性に乏しい勉強をしているうち、あつという間に高3を目前にした春休みが来てしまい、さすがの私も焦った。このままではまずい。学校が受験と無縁である以上、受験に必要な知識と情報をどこかで「効率的に」手に入れねば間に合わないぞ。河合とか駿台とか、どこか通わないと・・・でも、大手はなんか気が引けるな〜、と思っていたある日、ふと新聞を開いたら、はらりと落ちたのが「館山塾」の緑色のチラシだった。今から考えても不思議だが、そのとき、鉛筆を握る手の館山ロゴに、「ピンと来た」のである。「ここに行けば何とかなるかも」と。「少人数制責任指導」というのも、大教室だと必ず寝てしまう私にとっては最適だったし、「今年度から私大文系コース設置」という文言も、まさに自分を呼んでいるかのようだった。(勝手なものである。)

翌週、鬱陶しい雨の日だったが、市谷の自宅から水道橋までトボトボと歩いて入塾説明会に向かった。親にはまだ内緒。ビルの一室、30人くらい入る教室の後ろの方に座って説明を受けた。指導方法や合格実績を聞くと、とてもレベルが高そうだったので、そもそも入塾試験に通るのか不安になってきた。でも、「私大文系コース」の試験科目は「英語」と、「国語じゃなくて小論文」と聞いて「よっしゃ」と思った。私は文章を書くのは得意だったが、「国語のテスト」というのが大の苦手だったのだ。(現国はいつも模範解答に納得できないし、古典は知識ゼロ。) ともかく、お小遣いで受験料を払い(当時としては痛い出費)、入塾試験を申し込んだ。

入塾試験は英語が嫌がらせのように難しく、こりゃダメだ、と思った。小論文は何とかまとめたものの、合否は全く予想がつかなかった。考えてみたら、合否判定が出る筆記試験を受けるなんて、初体験。発表を見に行く時もちよっとドキドキした。発表は、やはり雨の日。母と神田に出掛けた帰り、「実は、塾の試験受けてて、今日合格発表なんだけど、これから見に行ってもいい? たぶん落ちてるけど」と、初めて打ち明け、呆れる母を引っ張って水道橋へ。

結果は・・・受付正面の掲示板の最上段に自分の受験番号が見えたので、「受かってる(心の中でガッツポーズ)」と言ったら、母は信用できないらしく、「これ、本当に受かってるんですか?」と近くにいた白衣のハンサムな先生に受験票を見せて確認する始末(失礼な!)。その先生が、現塾長の胡子先生だった。「ええ、受かってますよ。1番で。」・・・後になって胡子先生に確認したところ、たまたま私の受験番号が一番上に書いてあったので、咄嗟に「1番」と出まかせを仰っただけらしい。しかし、とにもかくにも、それで親はすっかり気を良くしてしまい(単純である)、それなら外部受験も応援してやろう、塾にも通わせてやろう、という流れになった。胡子先生、ナイスハッパリである。いや、大感謝である。

そんなこんなで、私は晴れて館山塾生となり、週に一度、木曜日に「私大文系コース」の「英語」と「国語」の授業に出席することになったのだった。 ~つづく?~